

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

在外研究

2015年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名	
	異文化コミュニケーション学部・教授		イヒャンジン(李香鎮) 印	
研究テーマ	アメリカにおける北朝鮮：後期冷戦体制下のグローバル映像政治学			
全研修期間	2014年8月4日～2015年9月16日			
経費	年度経費	SFR申請額	所属学部からの補助額	SFR助成額
	2014年度	2,682,318円	750,000円	1,932,318円
	2015年度	1,993,252円	750,000円	1,243,252円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	米国	ハーバード大学韓国研究所・北韓大学大学院		

研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)

研究の目的

ハリウッド映画における北朝鮮と北朝鮮映画に現れたアメリカのイメージを比較・分析し、自国や相手国、関連国家に広がるグローバル・イメージとアイデンティティの再現における大衆文化の意味を考察する。ハリウッドによって拡大される、共同の敵としての北朝鮮のイメージは、北朝鮮による継続的な軍事的挑発や国際的葛藤から相乗効果を得ており、北朝鮮という国家だけではなく、北朝鮮人や韓国人、在日、朝鮮族、韓国系アメリカ人などのコリアン・ディアスポラのアイデンティティまでも、映画が切り取っている人種的ステレオタイプが固着する可能性がある。本研究は、このようにグローバル化によって急速に進む北朝鮮の文化的排斥、加えてコミュニケーション技術の発展と共に西欧の資本主義大衆文化が流入することで変化する北朝鮮人たちのアイデンティティを多文化主義、またはマルチエスニック社会に向かうトランスナショナルの観点で模索する。

研究成果

1) 4、50年代の映像関連資料収集結果：米軍政期(1945-48)と朝鮮戦争(1950-53)中に米公報院によって制作された反共映画に関する資料を閲覧と収集。日本植民地時代から解放後の米軍政期まで続いた反共主義は、占領国の支配理念として朝鮮半島の住民たちの生活を徹底的に統制する手段であった。初期韓国の戦争映画やスパイ映画はこのような米軍政期の統治イデオロギーの大衆教育のために制作され、日本植民地時代と似た政治的扇動性を持つ。

韓国で初めて作られた反共映画は1949年米軍政の公報院の制作または支援による<城壁を突破して>と<戦友>である。この二つの作品はまだ発見されていない。しかし、当時の記録と残っている映像資料を見るとほとんどが反共映画で、戦争映画、スパイ・諜報物などの劇映画やドキュメンタリー映画が主な作品である。政治的側面から見ると解放直後の朝鮮半島の住民たちは共産主義も反共主義も知らぬ西欧のイデオロギーとして受けて

研究成果の概要 (つづき)

いたが、外勢によって南北分断が政治的対立から日常生活の暴力的現実になって戦争にまで拡大し、結局は最も恐ろしいテラーの言葉になることを経験した。

2) 60年代の映像関連資料収集結果：朝鮮戦争前、50年代前半までの韓国反共映画は朝鮮半島のアイロニカルな政治的現実を反映している。当時の韓国反共映画における北朝鮮や共産主義者のイメージも直接的な体験ではなく、ハリウッドの反共映画の再現を踏襲する傾向も見られる。しかし、戦争後の韓国とアメリカの戦争映画における北朝鮮や共産主義者のイメージは差別性をはっきり見せる。韓国の場合は共産主義者、また北朝鮮が惨憺で抑圧的な分断の原因として繰り返し登場する。60年代は、反共映画が韓国映画の主なジャンルになる。反対にアメリカでは、反共映画が戦争と共に短期的な人気を極めたが、60年代からは大衆の記憶の中から徐々に消える。その後、娯楽映画として戦争、スパイ・諜報映画が人気を得たが、冷戦体制の終息とともにアクション映画やアニメなどのジャンルで北朝鮮のイメージが新たに表れている。

3) 現代アメリカのメディアに現れる北朝鮮のイメージ：ハーバード大学と北韓大学大学院に所蔵されている米朝関係と文化交流をめぐる理論的文献とメディア報道資料を整理した。そして、ワシントンの国立公文書館とニューヨーク大学、ジョージア大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 南カリフォルニア大学など、重要な大学図書館及び歴史資料館で関連資料を収集。該当大学の韓国近代史専攻の歴史学者と映画学者、及び専門研究者たちと持続的な学問的交流と共同研究のための研究会を行った。韓国映像院では当時作品製作に参加した人々の口述記録などの資料を収集した。また、このような映画作家たちの口述作業に参加した研究者らとの研究会を持って後続研究の支援と共同研究の可能性を議論した。

4) ヨーロッパやアジアのメディアに現れる北朝鮮のイメージ：グローバル・メディアの中の北朝鮮のイメージ、特にアメリカ以外のグローバル社会で製作されたドキュメンタリー映画を収集・調査し、韓国と日本のメディアに現れる北朝鮮のイメージと比較分析した。そして、該当映画のグローバル配給や製作、北朝鮮映画の米州配給や北朝鮮との文化交流の関係者へのインタビューをした。

5) 発表と出版：アジアとヨーロッパ映画(ハリウッドとの共同制作・配給)の中で北朝鮮を扱った代表的作品と映像資料の分析と研究結果をアメリカ大学やイギリス、韓国の主な大学や研究機関の講演会で発表、意見交換を行った。そして、その結果をまとめて研究成果を執筆した。そのなかの**一部**は2016年2月に出版された本(*Divided Lenses: Screen Memories of War in East Asia*)の一章として発表した。

5) 後続研究と出版予定：海外滞在研究が終了した現在、研究結果の分析を続け、2016年に出版予定である『現代コリアンシネマ』(仮称)の中の一章として執筆中である。そして、研究結果の全体の内容は、本また雑誌論文の形式で出版することを検討している。その内容は2016年7月にイギリスのロンドンで行う学会(Film and Media 2016)で発表する予定である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)

[北朝鮮] [ハリウッド] [戦争映画] [後期反共主義] [トランスナショナル・シネマ]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

②

Hyangjin Lee, Hawaii University Press, “The ‘Division Blockbuster’ in South Korea: Evolution of Cinematic Representations of War and Division”, in Michael Berry and Chiho Sawada (eds.) *Divided Lenses: Screen Memories of War in East Asia*, 2016, 21 pages.

④

“North Korea in Japanese Media”, An Invited Lecture, Harvard Korean Fellow Society, Cambridge, April 4, 2015.

“*Hallyu* Dining and Anti Korean Hate Speech in Japan”, An Invited Lecture, MIT, Cambridge, April 15, 2015.

“Cultural Consumption of North and South Korea in Asia and Beyond”, An Invited Lecture, Wellesley College, April 17, 2015.

“A Genealogy of Anti-Communist Film in South Korea: Representing and Imagining Cold War”, An Invited Talk at the Kim Koo Forum on Korea Current Affairs, Harvard University, 30 April, 2015.

“The Cold War on Film”, An Invited Lecture, Korea Society, New York, June 8, 2015.

“North Korea in America: The Cultural Consumption of Evil”, International-Asia Cultural Studies Conference 2015, Surabaya, Indonesia, August 7-9, 2015.

“The Cold War and Division System: (Re)constructing the North Korean Mind” (Panel Organizer & Moderator), International-Asia Cultural Studies Conference 2015, Surabaya, Indonesia, August 7-9, 2015.

“Hollywood and Terrorism: North Korea, an Axis of Evil and Global Culture Industry”, An Invited Lecture, Yonsei University, The Graduate School of Information & Industrial Engineering, September 11, 2015.

“The Representing of War Memories and Social Outcasts in Kim Kiduk’s Films”, The 20th Busan International Film Festival, October 7-9, 2015.

“The Global Images of North Korea and Cold War in East Asia”, an Invited Lecture, North Korea University Graduate School, October 30, 2015.

※ この（様式2）に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。